

◆抗精神病薬ゼプリオンで85人が死亡 2016.6.21 えにしメール◆

第1回日本医学ジャーナリスト協会賞「特別賞」を受賞したNPO・地域精神保健福祉機構・コンボが、発売から26か月で85人が死亡した向精神薬について厚生労働省に要望書を提出しました。「もし、他の薬剤で、85人も亡くなっていたらどうでしょうか？

食品に異物が混入しただけでも社会問題になるのに、精神科の薬で、85人が亡くなくても社会問題にならないというのは、なぜなのでしょう。」とコンボの当事者の方々は訴えています。今夜のテレビ、あす、22日の各紙は、どう報じるのでしょうか？

——*★*——

この薬は、2013年11月にヤンセンファーマーから発売され、1回注射をうつと、その効果がおよそ1か月持続するというものです。発売から4か月半で、死亡者数が17人になっていることがわかり、厚労省の指示で、翌年4月17日に安全性速報が出されました。

コンボでは、死亡者数が増えているか、定期的にチェック。医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページ上で公開されている副作用の報告書

http://www.info.pmda.go.jp/fsearchnew/jsp/menu_fukusayou_base.jsp

をチェックして、6月中には、死者が85人になっていることをつきとめて、厚生労働省の安全対策課に本日とどけました。

コンボが提出して要望、根拠になるデータなど詳細はこのメールの最後に。

☆厚生労働省への要望書

<http://www.comhbo.net/wp-content/uploads/2016/06/youbousyo20160621.pdf>

☆4 剤死亡累積比較

→ <http://www.comhbo.net/wp-content/uploads/2016/06/4zai-ruiseki.pdf>
ゼプリオン、コンスタ、インヴェガ、エビリファイ(注射)の4種類の薬による死亡者数を発売時期から足しあわせて比較した折れ線グラフ

☆薬剤別月別死亡者数

→ <http://www.comhbo.net/wp-content/uploads/2016/06/shiryoku1-1.pdf>

◆85人亡くなって、ベタか、ボツとは。。 2016.6.22 えにしメール◆

昨夜の「えにしメール」に、

「もし、他の薬剤で、85人も亡くなっていたらどうでしょうか？」というコンボの当事者の訴えをメディアは、どう報じるのでしょうか？と書きました。

結果は——

朝日とサンケイがベタ記事、他の新聞には影も形もありませんでした。

えにしメールにいくつもの反響がよせられていますが、その中から薬学関係者からのものを2つほど。

「核心の1つは、ヤンセン社が死亡者数を報告しながら使用者数を明らかにしていないこと。使用全例の調査をして何人中何人にどの副作用がでたのか調査することからしか、問題解決はできないような気がします。」

「製薬会社の大切な仕事は、薬を使用する方が、その薬を使うかどうか判断できるようなデータを「見える」ようにして置くことだと考えます。今回のヤンセン社のやり方は使用者の方々を暗闇の中に置いておくようなやり方。

ポールヤンセン <http://www.janssen.com/japan/about-us/dr-paul> という偉大な薬理学者が作った会社のやり方だとは思えません。」